

日本大学工学部

# 校友会報

第 37 号

昭和56年3月1日

## 目 次

あいさつ（工学部長、校友会長）……………2  
 日本大学工学研究所の現状……………3～4  
 会員名簿の管理の電算化の現況・他……………5  
 校友短信・噂のページ……………6～7  
 同窓会だより……………8～9  
 校友も利用できる工学部管理の厚生施設10  
 CAMPUS mini MEMO ……………11  
 総会通知・他……………12



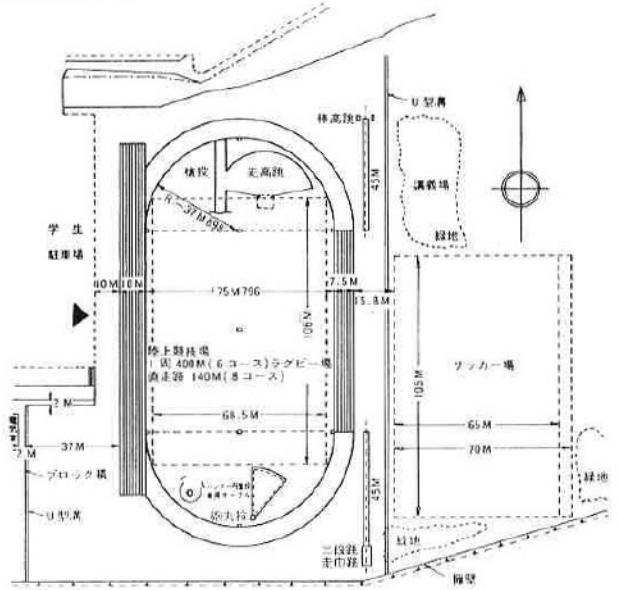
證

第2356号

場 所 福島県郡山市田町穂定中河原 /  
 競技場名 日本大学工学部陸上競技場  
 所 有 者 学理飯 鈴木 勝  
 竣工期日 昭和55年10月6日  
 一周の距離 400m  
 有効期間 自昭和55年10月10日  
 至昭和60年10月9日  
但し、改築した時は無効とする

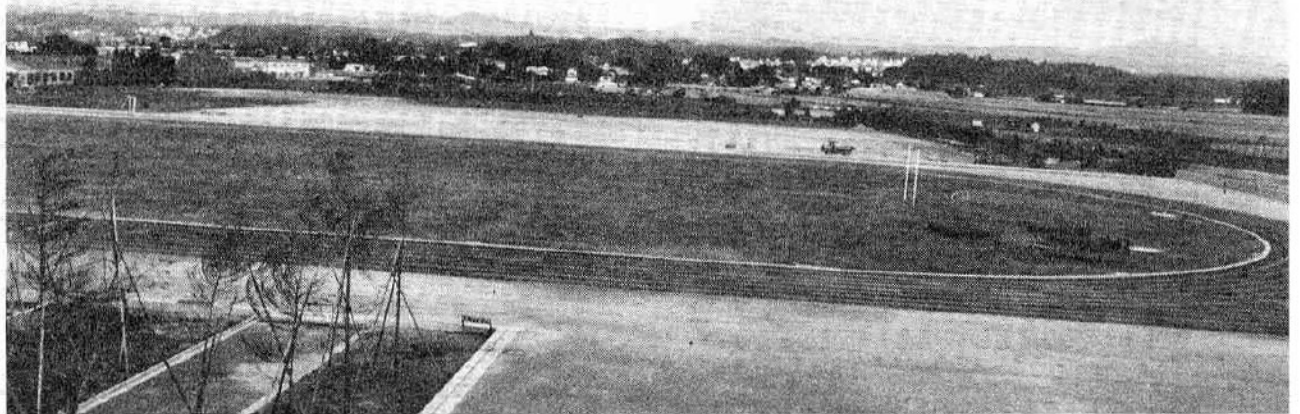
上記実測調査の結果第3種競技場  
 として公認する  
 昭和55年10月22日

財団法人 日本陸上競技連盟



(規模)

- ① 400mトラック（表層砂質ローム仕上げ）
- ② 走路 400m 6コース（ホームストレッチのみ8コース）
- ③ フィールド施設  
 ハンマー投、円盤投兼用サークルおよびピット、砲丸投、  
 槍投、走高跳、走巾跳、三段跳、棒高跳の各ピット、中央  
 フィールド部分はラグビー場を兼ねる。





## ごあいさつ

日本大学工学部長  
廣川 友雄

年改まって、校友の諸君はいよいよ壮健に、各自の立場で頑張っておられることとお慶び申し上げます。

本年度も、新たに1,000余名の卒業生が巣立つのでありますが、これを以て本学部校友の総数は20,000名を越えることとなります。古い卒業生は既に社会の重要な地位にあって、日本の経済に対しても重要な影響のある仕事にたづさわっている者もある現状の中で、新しい卒業生は先輩の名に恥じぬよう頑張ってお返しを頂きたいと思っております。

さて、昭和55年度に工学部において行われた新たな事項について述べますと、先ずゼミナールを実施しました。これは、希望する先生が、それぞれ得意とするテーマで学生を募集し、年間を通じて共に研鑽を重ねようというものです。目下約30テーマで実施しておりますが、今後はこの1年間の経験を生かして、更に発展させてゆきたいと考えております。次に、大型電算機を導入して、全学生に対し実習を含めた講座を設定したことです。勿論、研究用としても既に活用されており、今後さらに技術改良に伴って充足してゆきたいと思っております。また、グラウンドの西側寄りに第3種公認の陸上競技場を作りました。学園全体にわたって、今後多少の手直し増設はあるにせよ、これで学術文化関係クラブを含めた82あるすべてのクラブが、同時に練習を行えることになりました。

昨年9月には、「第24回香料・テルペンおよび精油に関する討論会」が菊池教授を世話人として、約500名の研究者を集めて行われました。これで工学部で行われた全国的学会は4つになりましたが、本年5月13日～15日には「Polymers in Concrete」の国際学会が、日本大学主催のもと、工学部で行われます。5大州にまたがり20カ国から約200名（うち外国人60名）が参加する予定で、準備も整いましたので成功裏に終らせる所存です。

近年、同期の諸君の集まりが郡山で開かれるようになり、母校の生れ変わりように驚き、私共とともに喜ぶ機会が多くなりました。

郡山は、今冬は昭和22年以来の大雪でして、お蔭で、私事で恐縮ですが家内の腕の骨折などのことがあり、未だに頂いた賀状の返礼を申し上げておりません。紙面をお借りしてお詫び申し上げます。

では、本年も校友の諸君の御精進を期待し、御多幸を祈ります。

（日本大学教授、工学部校友会顧問）



## あけましておめでとう

日本大学工学部校友会長  
武田 仁幸

昭和56年の新春を迎え、会員の皆様に謹んで、御祝詞を申し上げます。

80年代の幕明けは「不透明の時代」といわれたとおり、国外ではイランイラク戦争に始まり、国内では、鈴木内閣の誕生、足早な財政の建直し策、エネルギー問題などと世情は変転を極め、それに追撃をかけるがごとく異常低温による冷害と、多くの問題をかかえた1年でありました。

さて、本年は多くの経済評論家が口を揃えて申しております。「曇りのち晴れ、の経済であるように願うのは私一人ではなく、会員皆様も同様に切なる望みではないかと考えます。されば我々はまず自分自身を切磋琢磨し、好機を失することのないよう希望致します。

広川学部長が常日頃次のように申しております。「この経済事情不安な時代に求められる技術者を育成するのが我が工学部の使命であり理想であり、逆境に強い人間を育てることが、私達の務めでもある」と。近年会員の皆様の御子息達が工学部に入学するようになって参りました。広大なキャンパスと高邁な建学精神のもとに更に入学者の多くなることを期待いたします。

私達同級生が卒業いたしました25年になった事を記念して昨年夏、各科を問わずに全員に呼び掛け、家族連れの同級会を郡山で催しましたところ、大変な好評でした。すでに、校友会も創立20数年を迎えたわけで、今年度は、卒業してから20年から25年ほど経った校友を秋の北桜祭の時に招待し、旧師との語らいの場を作りたいものと思っております。

また準会員（学生）に対し、県人会の結成を呼びかけ校友会の組織とつなぎ地方指向の就職などで手助けをすると同時に、入学希望者の拡大を図りたいと思っております。

我学園では本年5月ポリマーコンクリート国際会議が開催されます。私はある雑誌の「謙虚で控え目な日本人はかえって迷惑だ、との一文が目につきました。この方はよく国際会議に出席しているとか、会議では何時もあとから発言していたら、イギリス人の議長が昼食の時、そばに来て「貴方の発言は的をえて大変良いがいつも討論の終るころ発言されるので大変迷惑だ、どうか議事の初めか、中頃に発言して下さい」と注意されたというのであります。私もよく遭遇する事です。経済面も技術面も、もう日本はイギリス、アメリカの地位にまで達していると思います。胸を張って発表していただきたい。諸兄のご活躍を望むものであります。

（土木工学科第3回卒、東和工業(株)）

# 日本大学工学部工学研究所の現状

所長 廣川 友雄

当研究所の発足は昭和48年に遡るが、現在の陣容は所長に廣川友雄工学部長が当り、その下に次長宇野原信行教授と学部各科からの代表として運営委員が組織されている。そのメンバーは土木工学科：野中八郎研究所教授、建築学科：谷川正己教授、機械工学科：一色忠夫教授、電気工学科：国分欽智教授、工業化学科：菊池光子教授、一般教育科：蓬田和夫教授で、工学部の全専任教員が所属している。従って教員各自の研究が研究所としての研究にも相当するとの観点から、最近に於ける研究活動を次の項目毎に分けて述べる。

## 第23回学部内研究発表会

昨年末の12月22日に開催された。11会場に分れて各科および一般教育の全分野に亘って同時に行われた。講演件数は117件であって、その中には理工学部、あるいは生産工学部からの参加もあり、また、校友による研究発表、共同研究における大学院生による発表なども含まれていた。その状況は学部を越えての研究の交流、情報および意見交換等も含まれて活発な討論が為された。毎年、行っているこの発表会は外部の者も含めて本研究所の研究活動の推進に大きく貢献している。

## 2. 工学部紀要 第21巻A、Bの刊行

昭和55年3月付にて昭和54年度分が刊行された。

(A) 工学編と(B) 一般教育編とに分けて、それぞれ29編および15編の学術論文が集録されている。この紀要は外部の大学、学会、研究団体ならびに図書館など、全国にわたり寄贈され、これらを通して海外にも紹介されているためか、海外から照会を求められる論文編数も可成りの数に達している。

## 3. 受託研究および研究生

工学部の教育に対する外部からの委託研究は本研究所が受け付けることになっているが、本年度はそのうちの7件が比較的大型のものになっている。また、外部からの委託研究生は現在2名であるが、本年2月からは国連基金によるインド人の研究生が、約4カ月の予定で工学部に留学する。

## 4. 学会の開催

昭和54年度には工学部において2つの全国的な学会、および1つの国際学会が開催された。その1つは9月に行われた自然災害科学総合シンポジウムで西田研究所教授が実行委員長となって3日間約700名の出席者を得て実施された。10月には日本分析化学会の年会在宇野原教授を準備委員長として行われ、3日間で約1,000名が参加した。この時、同時にStandard Reference Materialsの日米合同シンポジウムも行われた。

昭和55年9月には、菊池教授を世話人として、第24回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会が約

500人の研究者の出席を得て行われた。また、昭和56年5月には、世界各国20カ国から約200名(うち外国人60名)が参加して第3回Polymers in Concreteの国際学会が開かれる。

## 5. 研究活動

本研究所の研究活動は工学部の研究活動ということであるが、その成果は上記1および2の項に記した場で発表される外、それぞれの所属学会、あるいは国際学会で発表され、さらには国内外の学会誌に論文として発表されている。昭和54年度には、その論文数は100編を越えるものとなっている。また、学会の役員としては日本学術会議会員・国際的な学会委員会の会長・専門委員長・委員など多数で、地方支部でも支部長を初め多くの役員を出している。

なお、海外に出張した者のうち国際会議に出席した者8名、調査研究を行った者は16名であって、このうち3名は招待されて各地で学術講演あるいは研究指導を行っている。

最後に、本学部で行われている研究の内容の一端を、上記の工学部紀要あるいは学会誌などの論文から拾うと下記の通りである。

相対粗度の大きな急勾配開水路流れにおける乱れ特性。地盤の常時微動の時間的変動と地盤種別。曲げねじりを考慮した格子桁。鉄筋コンクリート梁の主鉄筋に働くせん断力。長方形管路の平均流速。三次元梁の弾性理論。鋼繊維補強オートクレーブ養生コンクリートの曲げ。ポリマーセメントコンクリートの促進中性化。火災時における爆燃現象。人間関係と住。空間設備の標準高さのSliding Scale。視覚障害者に対する誘導計画。郡山市中心市街地における空洞化現象の動向。乱気流中における固体粒子の挙動。回転曲げ疲れ試験に表われる横たわみならびに表面温度の時間的変

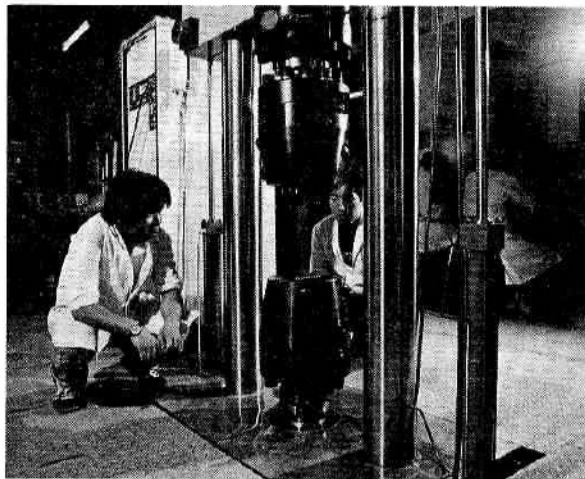


昭和54年7月完成の新実験棟

化。対称深切り欠き帯板の引張試験による迂り線領域。電気抵抗法による鉄鋼の表面割れ深さの測定。超音波集束探触子の試作とその性能。超高電圧火花放電。デジタルICによるサイリスタ位相制御回路。不均質被膜による光幕グレアの係数化。矩形面をもつ振動ピックアップの水平設置共振。楔形の超音波振動子。表面欠陥の分類とNaCl型構造の(111)表面。容量性窓をもつ誘電体板共振器の共振特性。マルチマイクロプロセッサシステムM $\mu$ PS-1。分数波長ループアンテナによる放射電界の近似式。ゼオライトに保持したトリ-*n*-オクチルアミンによるクロム(VI)の吸着と溶離。メチルメタクリレート共重合体の熱分解ガスクロマトグラフィーによる定量分析。ステロール異性体の<sup>1</sup>H-NMRスペクトル。色素レーザー励起によるN,N-Dimethyl P-Nitroanilineの前期共鳴ラマン効果。Dew and Bubble Point Curve for Binary Ideal Solutions。白錫の個々の転位の動静。平行平板型電子増倍管。蒸着薄膜。PLZTの電気的、光学的性質。多段ミラー磁場中における電子プラズマ振動。Fractional Differentiated Trigonometric Functions。Sur les Matrices Orthogonales Périodiques。

#### 6. 一般校友の研究所の利用法

前記、1の項でも述べた様に、既に郡山市役所その他から工学部校友の方が研究発表を当学部で行っていますが、毎年の研究発表会の案内書は校友会に届けま

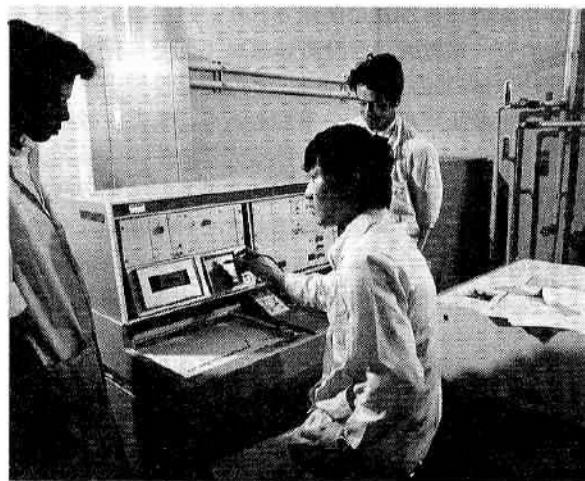


すので、その際に各科の学術研究委員を通して多数の方が申し込まれることを望みます。

また、校友の方で当研究所もしくは本学部の研究生になることを希望される向きは各科の主任に申し出られれば、所定の審議を経て採用されます。尚、大学院卒の方は研究所研究生に、学部卒の場合は工学部研究生になります。

前記、3項の委託研究を校友の方が工学部に申し込まれることも大いに歓迎いたします。この場合には、委託研究規則が工学部庶務課に備えられてありますので、これに従って各科の研究所運営委員を通して庶務課に申し込んで下さい。その際、当方の教職員と共同研究を組むことも可能です。

以上、何れも、校友諸氏関係の学問技術と本学部研究面の発展にかかるものでありますから、積極的に利用されんことを期待して止みません。



〔写真説明〕

左下：油圧サーボ疲労試験機 (EFH-500)

実物試験が可能で±50 tonの容量を持っている。疲れ応力による破壊防止の研究に使われている。(機械工学科)

右上：JEOL FX-90QFT-NMR装置

有機構造化学および有機反応化学に関して多くの情報が得られる。(工業化学科)

A 電気チェーン・信用とサービスの当店を宜しく

ナショナル・デンオン・トリオ・パイオニア・ビクター  
ソニー・アイワ・サンヨー・日立・東芝

# オーディオ開成(株)

代表取締役 伊藤 宜世 (電気工学科第14回卒業)

郡山市開成2丁目40番10号 電話0249-34-1121(代表)

## ◇会員名簿の管理の電算化の現況◇

校友会報のNo.35、36号でお知らせしていますように54年3月から会員管理の電算化を進めて2年が過ぎようとしています。その間、多くの会員のご協力によって、現在右表のように半数以上の方々のデータが入力されています。

前号でも報告しましたように、これらは電算機で処理をして、次の9種の名簿として out put することになっております。

- ①基本名簿 ②産業別名簿 ③県別名簿 ④クラブ別名簿 ⑤出身県別名簿 ⑥学科別県別名簿 ⑦学科別産業別名簿 ⑧県別産業別名簿 ⑨索引名簿

これらの名簿は毎年4月末に out put する契約になっており、今年の5月中には、29回生も含めて約1万5,000人が out put できる予定です。これらをすべて印刷製本して各人に配布するのはどうかと思いますので、②以下の名簿は必要な人に必要な部分だけをコピーして配布したいと思っております。

コピー代（郵送料を含めて）

5枚まで	200円
10枚まで	400円
20枚まで	600円

それ以上の時は上記の分量になるように分割して取扱う。

電話又ははがきで申込んで、50円切手で相当金額を納入する。

また、①の基本名簿は、今まで5年に1度の割で作成して配布していたもので、前回は50年に発行したままですので、本来ならば55年に発行しなければならないわけです。それがこの電算化のために延々になっていたもので、先の校友会理事会では、あまりにも登録数が少ないので、57年6月に発行する予定を確認いたしました。それにしましても、発行するからには正確を期したいし、別表の未登録者の数を少しでも少なくしたいわけです。該当の人には別状をさし上げますが重ねてご協力をお願いするわけです。また不明者については次号の会報でお知らせして、これも皆様のご協

力をお願いする予定です。

このように out put は年に1回ですが、メンテナンスは年4回の割で行っていますので、内容に変更が生じた時は、直ちに事務局の方にお知らせ下さい。

これらのことについて、ご意見やご希望があったら、事務局まで申し出て下さい。

卒業回	区分	該当者	昭和56年1月末現在	
			電算機にinputされている者	未登録者
第二工学部	1回~14回	4,739	3,375( 820)	1,364
工学部	15回~21回	5,954	2,790( 452)	3,164
	22回~26回	6,112	2,064( 146)	4,048
	27回~28回	2,381	2,381( 0)	0
計		19,186	10,610(1,418)	8,576

### ※新規原票の誤印刷のお詫び

55年9月に22回~26回生の皆さんにお送りしました約6,000枚の会員原票が、クラブ部名のうち少林寺拳法部を小林寺拳法部と誤印刷しました。24回卒の瀬川和男さんからご指摘がありました。お詫びして訂正いたします。

### ◇工学部と校友会との懇談会を開く◇

昭和56年1月23日、広川工学部長はじめ学部の要職におられる方々18名をお招きし、武田会長以下理事全員と共に、校友会活動を含む学内外の諸問題について懇談した。両者の協力態勢は増々強固となった。



懇談会に出席された諸先生方と共に

自動車車体製作・各種冷凍機器  
システム設計製作

# (有)大洋自動車工業

代表取締役社長 塚 越 宏 一 (機械工学科第12回卒業)

〒370-11 群馬県佐波郡玉村町大字板井824 電話0270-65-2988

（校友会の事務局へのお便りや、その他の連絡などから無断で掲載いたしました。ご了承下さい。）

## 土木工学科

- ◇**穴戸文彦**（16回卒、世紀建記株式会社技術課長）  
KUWAITに1年半、地元建設会社の技術指導をして来ました。学生時代にロッキーマウンテンボーイズだった村井さん（森本組勤務）と、同じプロジェクトで会いました。アラビアボケを直すのに3カ月を必要としました。  
(55. 9. 29受)
- ◇**西村克昭**（16回卒、㈱青池組取締役工事部長）  
卒業以来10数年、当社にも後輩が入社し、母校の様子を聞くにつけ、校友会報を見るにつけ、りっぱになった母校になつかしさを感じます。あまりにも遠過ぎて母校を訪れるのは無理ですが、会報を見ながら想像をめぐらせております。  
(55. 9. 22受)
- ◇**藤沢宏治**（16回卒、佐藤道路㈱工務部作業所長）  
現在、九州自動車道の宮崎舗装工事を施工しています。中国道（山口）—東北道（宮城）—中国道（広島）—北陸道（滋賀）—九州道（宮崎）と連続して高速道路の仕事をして、1年～1年半ごとに引越をしています。宮崎には56年6月までいます。  
(55. 10. 7受)
- ◇**松井政夫**（19回卒、茨城県立土浦工業高校土木科教諭）  
生れ育った福島の前白河を離れて、土浦でがんばっています。届けられる校友会報をなつかしく拝読しています。今後共よろしくお願い致します。  
(55. 5. 21受)
- ◇**山岡和男**（24回卒、山岡工業㈱常務取締役）  
出身県の各官庁の先輩や同窓生や、地元で働いている人の名簿を配布してもらいたい。  
(55. 9. 20受)

## 建築学科

- ◇**鈴木要一**（10回卒、清水建設㈱仙台支店東北新幹線仙台基地工事事務所工事主任）  
校友会報を懐しく拝見させて頂いております。本年5月より東京本社から仙台に来ました。総工事費1,000億円の基地の工事参加は小生にとって一生一度の有意義な体験です。  
(55. 10. 16受)
- ◇**新宮清志**（16回卒、日本大学理工学部海洋建築工学科専任講師）  
勤務のかたわら、日本建築学会海洋構造分科会骨組容器小委員会委員、東京建築士会会員委員会青年

分科会委員などもやっています。

- (55. 4. 3受)
- ◇**永田 進**（22回卒、静岡県立天竜林業高校建築科）  
工学部の志願者が減少しているようですが、この機会に、工学部出身で教員として勤務している者が横の連絡を密にして、進路指導を実施したいと思います。そのため学部当局も教員として全国に勤務している者の声を聞く機会を是非設けてほしい。他大学ではすでに行っています。  
(55. 9. 27受)
- ◇**百武徹紀**（22回卒、住友建設㈱海外事業本部建設課）  
55年5月20日付けでシンガポール共和国駐在になりました。  
(55. 10. 24受)
- ◇**宮崎孝雄**（22回卒、㈱久米建築事務所海外室）  
今年1月に発足しました学文連OB会々長を任務していますが、55年9月21日より約1年間の予定でBANGKOKへ赴任することになりました。  
(55. 9. 18受)
- ◇**山田 順**（23回卒、山田塗装工業所専務）  
学生時代は日本大学新聞社郡山通信員（正記者）をしていました。当地も、毎年校友が増え、旅行をしたり、親睦会をしたり、活発になっています。持つべきものは友であり、心はキャンパスであることを感じる今日です。  
(55. 9. 22受)
- ◇**村澤和宜**（24回卒、田村建設㈱工事部）  
卒業して5年目になり、学生の頃の事や郡山市の事が懐かしいです。出来れば大学の様子等を知りたいので、大学で発行している広報等定期的に読めるような方法はないものでしょうか。  
(55. 10. 23受)

## 機械工学科

- ◇**荒本 隆**（17回卒、三菱自動車工業㈱開発本部乗用車技術センター）  
入社後、早くも11年が経過しました。入社以来自動車（軽・商用車・乗用車）の開発に毎日忙しい日々を送っております。昨今、自動車業界をとりまく環境は厳しく、その上、開発サイクルの短縮により、いかに効率よく車を開発していくか今後の課題です。  
(55. 10. 9受)
- ◇**菊地恭三**（19回卒、㈱古口自動車整備工場）  
6年間㈱日産ディーゼル工業に勤務致しましたが、自営のため退社し、目下、古口自動車整備工場

備士として修業中です。この道に入って約2年半、  
やっと自信がついて参りました。

(55. 3. 28受)

◇清水康博 (19回卒、日本航空(株)情報システム部ED  
Pシステム室)

校友会の皆さまいつもご苦勞様です。だんだん会  
員数が増えて、さぞ大変であろうと察します。よろ  
しく願います。

(55. 9. 22受)

◇細谷高彦 (24回卒、レオン自動機(株))

53年から西ドイツのジュッセルドルフに駐在員と  
して勤務しています。 (55. 11. 4受)

◇丸山 久 (26回卒、埼玉県越生町立越生中学校)

教員になって3年目、現在3年生の担任として進  
路面で忙しくなっています。また、教員生活のスタ  
ートと同時に剣道を習い始め、現在2段です。

(55. 11. 4受)

## 電気工学科

◇小林次郎 (11回卒、東洋電機通信工業(株)横浜支店線  
路部線路次長)

「山の家」は今どうなっていますか。学生時代の  
学生委員会での活動がなつかしく思われます。

(55. 9. 5受)

◇長友賢二 (18回卒、日本電信電話公社中国電気通信  
局建築部設備課長)

青春多感な郡山での4年間を終えて早いもので10  
年余が過ぎました。電電公社本社に入社して以来、  
東京・四国・東京・広島と転勤して現在にいたって  
います。

(55. 9. 29受)

◇郡司政吉 (22回卒、日本計測工業(株)郡山営業所)

磐越東線で日大工学部に通学した者として、現在  
現役の人は東会を結成し、日大東会OB会も順調に  
活動しております。30名程がOBとして親睦を深め  
ています。県内に残っている方がほとんどですが、  
会う時がとても楽しみです。

(55. 9. 26受)

◇羽染和男 (23回卒、(株)ゼネラル総務部庶務課)

ゼネラルは新卒募集について、毎年相当数の採用  
を行っております。工学部学生の入社を切に希望致  
します。

(55. 9. 22受)

◇塩森健一 (24回卒、小松フォークリフト(株)栃木工場  
技術部試験研究チーム)

無人フォークリフト及びマイコンフォークリフト  
の研究をしています。日本大学工学部卒業は自分  
一人なので、後輩の入社を待っています。

(55. 10. 6受)

## 工業化学科

◇五十嵐愛武 (7回卒、日本電信電話公社海外連絡室  
調査役)

54年2月から在任しています。現在クウェイト勤  
務です。 (56. 1. 10受)

◇岡崎 保 (24回卒、(株)伸幸ライト工業所技術部)

校友会報などでクラブ活動の内容や試合結果の報  
告なども知らせてほしい。大学内の様子など知りた  
いと思う。

(55. 9. 22受)

## 噂のページ

◇渡辺唯四郎君 (建築5回卒)

旧姓筋内唯四郎君。56年2月、福島県田村郡都路  
村長に無投票で再選。2期目。都路村は福島空港の  
誘致に名乗りを上げており、今後の活躍が期待され  
ます。 (事務局)

◇和田健二君 (化学13回卒)

卒業後、東工大工業材料研究所の研究生となり、  
その後、理研軽金属工業(株)研究課長を経て、昭和50  
年9月科学技術庁無機材質研究所に入所し、現在主  
任研究官として活躍している和田君は、一貫してアル  
ミニウムの電解着色に関する研究をとおり、基礎  
研究および応用研究において数々の業績と成果をあ  
げてきました。「オールカラー化を実現したアルミ  
ニウムの表面着色技術」を「化学と工業」(日本化学  
会)32巻、6号(1979)に執筆しています。昨年は  
1980年の日本金属学会、金属組織写真佳作賞と1980  
年の国際金属組織写真電子顕微鏡部門の銅賞受賞の  
栄誉をうけ、その組織写真は、国際的に極めて高く  
評価されました。彼の栄誉を祝福するとともに、今  
後の躍進を心から期待したいと思います。

(菊池光子・化2)

◇遠藤久衛君 (化学16回卒)

8年前に人工じんぞう透析装置に用いる「人工じ  
んぞう用血液回路」を研究開発し、52年に東医工(株)  
を設立して製品の製造を行っています。(社員80名)  
今後は医療化学の立場から臨床分野での新製品の開  
発に意欲をもやしています。(後藤尚・化2)

◇福田幸弘君 (機械25回卒)

副島先生の研究室で、人間工学の研究をしていた  
が、(株)本田技研に入社し、現在、和光研究所で自動  
車衝突時のエアバックの研究をしています。これは  
近い将来アメリカの安全基準に取り入れられるた  
めに、輸出対策の一つとして各社が研究しているも  
のです。(菅野宗和・機2)

# 同窓会だより

## 山口アカシア会

山田 啓介

55年7月、第2回山口アカシア会は県庁所在地の湯田温泉で開かれました。今まで山口県には東の端と、西の端とでそれぞれ5、6年前から建築科卒業生だけの会合が行われていたのですが、県庁勤めの浜中氏（建8回）の呼びかけで、54年春から2、3回、東西より集った臨時役員が打合せを行った結果、夏休暇中福岡で行われる父兄懇談会に行かれる外山先生の来席をおおぎ第1回山口アカシア会を開催したのが初まりでした。



私達のアカシア会は、全員風呂に入ることから始まります。第1回出席の外山先生も、この度出席された小栗先生、有賀先生との初対面も、タオル1枚のお湯の中でありました。裸とはいいいもの、心の中まで隠すものがなくなってしまい、一ぺんに打ちとけてしまいました。テーブルが校歌や応援歌を流す会場へ、浴衣姿で全員が集めた時は、まるで昨日から泊っていたかの様にガヤガヤ話しがはずんでいました。武田校友会会長のメッセージを、小栗先生が読み上げ、新しく設立される九州支部発足会場に持って行くスライドを、有賀先生が、懐かしい東北弁をまじえて説明して下さる頃には、私達の気持は一つとなり、遠い若かった昔に戻っていました。懇談会は、校友1人1人が自己紹介を行い、現場の様子や、事務所運営の苦労話、会社のピーアールなどする者、立派になった学校に行ってみようと思いだす者、嬉しさと、懐かしさが会場いっぱいになり、時間の過ぎるのも忘れて楽しい夜は更けて行きました。

山口県は、日本大学の学祖、山田顕義先生出生の地でもあり、萩の東光寺の横には美しく整備された記念碑も建っています。まだ私達山口アカシア会は40人たらずのグループで、会則も出来ていません。でも日本大学に学んだことを会員一同誇りと思い、学校の発展を願う気持の強い人達ばかりです。こうして会報に書かせていただき、読んで同じ気持の校友も集って来ると信じています。校友会本部の指導をおおぎ、小さく

とも強い絆で結びあった立派な山口アカシア会となり、いずれは、会長のメッセージにもありましたように、工学部校友会山口県支部結成への源動力となるよう全員が努力して行きます。

全員が肩を組み校歌や応援歌を合唱し、お互いの健闘と来年の再会を誓い合って散会となりました。

(建築学科第6回卒、権・建築設計事務所)

## 3回生同級会

高野 操

昭和26年の入学生は入学以来約30年、卒業以来25年ということで、その同級会を武田仁幸君（東和工業(株)社長）が発起人代表となり55年8月2日の夕方から整梯熱海のホテルで開きました。卒業した人は、土35、建11、機11、電12、化13の合計82名で、そのうち土12、電2、化2の16名が出席しました。家族同伴の1泊ということで、家族は11名で、紅一点の生天目（現姓は原）さんもお嬢さんと一緒に出席されて錦上に花をそえられました。東京・千葉方面からの出席も多く、四半世紀の苦労話を徹夜で話し合いました。また、広川・本間・宇野原先生にも出席をお願いし、お互いの交流を深めました。出席者には福島市道路維持



課長（藤野）、郡山市土木建設課長（太田）、郡山市水道局建設課長（松山）、いわき市土木課長（酒井）、千葉県漁港課長（根本）、郡山建設事務所工事課長（吉田）、といったメンバーが揃い、さながら課長の集まりの様子で、花の3回生の面目を新たにしました。また、業界での活躍者も多く、東和工業(株)社長（武田）や古村建設(株)社長（古村）と多彩な集まりでした。石橋工業（鈴木）三井造船（佐藤）千葉県庁（安部・杉原）二本松工高（遠藤）日大東北高（高田）そして生天目さんが千葉工大の施設課と出席者全員の今後の活躍を祈って散会しました。写真を見て、どの人が誰の奥さんであるかを想像して下さい。

(工業化学科第3回卒、日本大学工学部)



## アカシヤ14期会

朝倉治郎

私共は第14回建築学科卒業生の集まりを「アカシヤ14期会」として発足し、第1回を昭和55年11月22日に東京神宮にある日本青年館で開催しました。本来、先生方や全国の同期生に連絡すべきだったのですが、遠路大変なこともあり、おいおい拡大することとし、今回は、関東・静岡・福島各県とし、事前に名簿作りから始めました。

校友会のコンピューターによる作成名簿、桜門建築会名簿等を参考にして往復ハガキで出したところ、戻ってくるハガキが少なからずあり、やはり、我々の仲間は我々の手であるということで、友人から友人と電話で連絡がとれ、やっと93人の名簿ができあがりました。これを基に同級会を開催するに至りました。



卒業してから15年ぶりなので、名前と顔が一致しないだろうということで、名札を胸に付けてもらいましたが、これはヒットしたようです。皆、顔は確かに覚えがあり、頭は薄くなった者、白くなった者、又貫禄が出て太っている者、さまざまで、非常になつかしく、それぞれ思い出話がつきませんでした。時間ばかりが早く過ぎてしまいました。

37才ぐらいになると、官庁・設計事務所・ゼネコン等の職場でも第一線で活躍しており、皆、そうそうたる肩書の持主でした。仕事の面でも、互いに各自の立場の苦労話、自慢話などではずみ、今後互いに協力しあおうとまとまったようです。なお、最後に校歌、エンジニア工科の歌、そして元応援団の長谷部君の日大節で盛り上がり、次回の幹事を決めて閉会となりました。

出席者は39名でした。うち紅一点は旧姓竹門弘子さんで、学生時代より美しくなったと噂が絶えませんでした。そして、2次会に、赤坂・渋谷・新宿へと散会しました。

翌日の23日(日)は、希望者による第1回ゴルフコンペが真岡C.C.で行なわれ、1Rプレー87(45・42)で武石君が優勝しました。

ゴルフコンペは年2回、同級会は年1回の割で開くことになりました。

(建築学科第14回卒、(株)日弘ライブ建築事務所)

## 土木5回の同級会について

大浦弘夫

昭和32年3月卒業以来、24年目の昭和55年12月6日、第2回同級会を開成山の源平旅館に於いて開催いたしました。

出席者総員24名、欠席者の多くは12月という時期の為、事業の関係や定例議会の関係で都合つかず心惜しんでおりました。出席者全員は頗る元気でゴルフ焼けと脂肪太りで貫禄充分。名刺交換をして見ると代表取締役、専務取締役、支店長、所長、隊長、部長と言った肩書きで学生時代はオイノ安田ノと声をかけていたのが敬意の念を表して自然と安田さんノになる始末でした。

一際目立ったのが、やはり頭髪です。金持白髪、苦勞白髪、精力減退白髪など色々あるようですが、これも中年男性の魅力のようでした。

開催は午後5時より先ず開成山神社に参拝、神官より家内安全、事業繁栄等の御祈祷を受けた後、宴会場に入り、校友会長・武田仁幸氏の御挨拶より始まり約3時間、梅原君お馴染みの「きれいどころ」を含め盛大に挙行され、懐かしい思い出ばなしに花を咲かせました。午後9時過ぎ第2会場へ足を運びモチモチの中に宿泊所・日大研修会館へと帰り着いたのが11時頃、それから暫し再び膝を交じえて飲み直したのち、銘々高軒の中に更けて行きました。

翌朝8時全員揃って食卓につきました。が過去学生時代を含め約30年余りの語らい…食事が終わっても尽きることなく、別れの時間が来ました。



次回の同級会は3年後の58年11月於東京と決定。又、今回も前回と同様、会費の一部を故渡辺実君の遺族にと細井君に依託し、万才三唱の後、名残りを惜しみつつ解散いたしました。

最後に多忙中、貴重な時間をさいて出席して頂きました武田校友会長に厚く御礼申し上げますと共に、今回の同級会開催について各級友への連絡や会計係、更に愛用車で送迎まで担当して頂きました浪越先生、細井君に深く感謝いたします。

(土木工学科第5回卒、千葉県君津市役所)

# 校友も利用できる工学部管理の厚生施設

日本大学には主として工学部の学生諸君が研修や各種会合を開催することができる工学部管理の施設として、郡山市内(荒池南畔)の日本大学郡山研修会館と、猪苗代町(国際スキー場隣り)の日本大学東磐梯寮の二つがあります。これは、工学部の学生諸君が利用していないときには本学の関係者に使用することを許可しているので校友もその一員として使用することができます。以下この二つを紹介いたしますから機会がありましたら、ご利用なされてはいかがでしょうか。

## 〔Ⅰ〕東磐梯寮

1. 下表は昭和54年度の利用者状況です夏期休暇、冬期休暇に学生諸君が良く利用しているようです。

学部別	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
工学部	学生	78	122	0	243	4	412	5	4	317	113	1,560	333	3,191
	教職員	10	40 (6)	8 (1)	125 (57)	105 (24)	57 (16)	52 (15)	13 (4)	72 (18)	123 (68)	65	60 (33)	730 (246)
工学部外	学生	26	20	0	114	778	88	0	0	0	0	0	760	1,786
	教職員	0	0	0	8	151	3	0	0	8	8	12	8	198

( ) 内は校友及び父兄の数

2. 施設内容は、建物総面積 1,272㎡、全館暖房、ゼミナール室(102㎡、会議50人収容)1室、和室(4.5畳3室6畳5室、4.5畳+6畳2室8畳12室)計22室、食堂(50~60人同時食事可、季節の山菜料理が珍味)、乾燥室(21.6㎡)、駐車場(20~30台収容可)、卓球、バトミントン、スキーの借用可、男女別大風呂、セルフサービス、時間厳守。

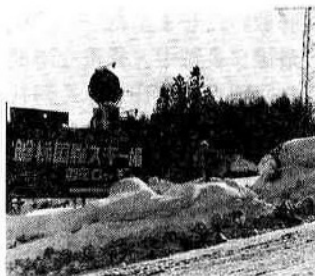


(吉野氏ご夫妻)

2. 寮を管理されている吉野氏のお伝えします。「昭和40年10月東磐梯寮開設以来管理業務を勤めて参りました。私は北海道生まれ、妻共々雪国育ちですから少々の雪には驚きませんが、子供等の通学には苦勞させました。お蔭様で長男は今年から工学部で勉強させていただくことになりましたのでホットしているところです。日大一家として今後共頑張ります。よろしく。」

4. 交通機関は、国鉄猪苗代駅下車、バスなら磐梯高原行に乗車、磐梯国際スキー場入口にて下車徒歩15分、バス代220円。タクシーなら7km、約1,500円ぐらい。入口の目印となる看板を見落さないで下さい。

吉野 実



(目印の看板)

## 〔Ⅱ〕郡山研修会館

1. 下表は昭和54年度の利用状況です。郡山市内にあって便利なため学生諸君の利用が多い。

学部別	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
工学部	学生	102	170	182	110	13	30	36	146	70	233	132	13	1,237
	教職員	200	89	59	29	15	34	60	137	147	84	79	62	1,065
工学部外	学生	0	0	76	183	6	0	25	4	0	0	0	1	235
	教職員	69 (60)	120 (117)	48 (28)	76 (25)	39 (21)	141 (132)	309 (251)	139 (120)	69 (28)	94 (73)	72 (62)	89 (73)	1,355 (982)

( ) 内は校友の数です

これは、日帰りの利用者です。このほかに宿泊利用者があります。

2. 施設内容は、建物総面積 1653.21㎡、全館空調、館内放送設備完備、ゼミナール室(和54畳会議100人収容、洋130㎡会議70人収容)2室、和室(8畳)12室、食堂(食事朝夕2食付、同時に54人食事可)、風呂(男10人用、女2人用)、駐車場(10~15台収容可)、セルフサービス、時間厳守。

3. 会館を管理されている佐藤氏の声をお伝えします。

「郡山市の西端、猪苗代湖岸中野の出身です。以前は石川島播磨重工に勤めておりましたが、昭和51年6月会館開設と同時に管理用務員として着任しました、子供等も大きくなり二人だけの家庭ですが利用される方々には家族の一員となっただけ、心をこめて、勝手な料理を差し上げております。お口よごしのときはご容赦下さい。」



(佐藤氏ご夫妻)

佐藤源二

## ※利用申込方法

この二つの施設を利用するときは、すべて工学部の庶務課に申込まねばなりません。現地受付は一切できませんので、ご注意下さい。利用状況で料金は異なりますので省略いたしますが、利用案内のパンフレットが学部にありますから取り寄せられて検討して下さい。申し込み先

〒963 福島県郡山市田村町徳定字中河原1

日本大学工学部庶務課

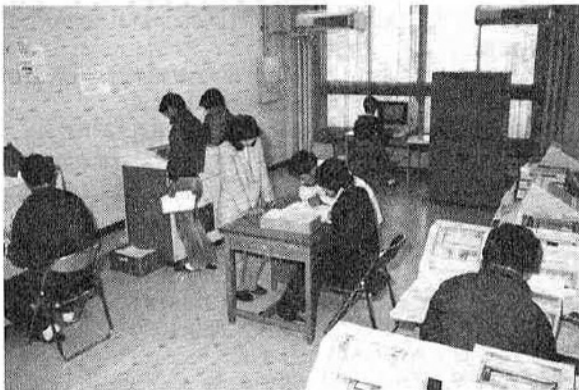
電話 0249-44-1300 内線231

### ◇電子計算機実習始まる

電子計算機のプログラミング実習を体験した卒業生を世に送り出したいという学部の先生方をはじめ、関係者の熱意により、長年懸案であった本学部の教育・研究用電子計算機システムが、この度稼動を開始した。

電子計算機は、計算センターのローカルバッチシステム、カフェテリア室のリモートバッチシステムおよび各科のTSSからなり、一学部の計算機設備としては大きな規模である。

稼動してからわずか2カ月余であるが、教員や院生の研究用としてはすでに実績も出始めている。またプログラム実習も各学科の実習担当者の熱意と努力により、予定より早く9月から開始されている。たとえ小さくとも、自分で考えたプログラムを作成することにより、将来、より大きく複雑なプログラムを開発する基礎ができるという点で、プログラミング実習は、今後の情報化社会で活躍する本学の卒業生には必須といえよう。



また、プログラミング実習は、電子計算機の利用技術の修得のためばかりでなく、物事を深く見詰め、分析する能力や複雑な物を構成する能力の向上にも大いに有効であると思われる。

このたび実現した教育、研究用電子計算機システムを有効に利用することを切望している。

(工学部広報No.87—昭和55年12月8日—から転載)

写真：カフェテリア室での実習

### ◇並木満之助先生御逝去

元機械工学科助教授の並木満之助先生は、昭和55年11月29日、我孫子の自宅にて逝去されました。享年65才でした。先生は54年11月に定年退職されたばかりでした。

### ◇篠崎平馬先生御逝去

元工業化学科教授の篠崎平馬先生は、昭和56年1月9日、郡山市の病院で逝去されました。享年83才でした。ご冥福をお祈り致します。

### ◇日大体育大会で工学部が総合7位

昭和55年度の日本大学体育大会は、10月8日の国立霞ヶ丘競技場での陸上競技を皮切りに、各種目が各学部グラウンドで行われた。工学部会場では、サッカー・柔道・剣道が行われ、10月21日には総合閉会式も工学部で行われた。

工学部の成績は次の通りである。

学生の部

軟式テニス(優勝)、柔道(2位)、サッカー・剣道(3位)、陸上・軟式野球・バスケット・硬式テニス・卓球(順位なし)

総合=7位(13学部)

教職員の部

硬式庭球(優勝)、800mリレー(6位)、ゴルフ(8位)、ソフトボール(2回戦負け)、軟式野球(1回戦負け)

総合=5位

この写真は、新装成った工学部の陸上競技場での、サッカー大会の表彰式風景である。



### ◇第31回インカレ

東北地区大学総合体育大会(インカレ)の第31回大会は、秋田市を中心に6月27日から行われた。工学部からは16種目に246名が参加した。成績は、次の通り。

空手道 3位

水泳 総合6位

個人 100m自由形 1位(八重田 淳)

陸上 総合11位

(た)

日本大学工学部校友会  
会員各位 殿

日本大学工学部校友会  
会長 武田仁幸

## 昭和56年度総会通知

校友の皆様には、各職域において益々御健斗のこととお慶び申し上げます。  
さて本会会則第28条により、日本大学工学部校友会昭和56年度総会を下記により開催いたしますので、先輩、後輩お誘いあわせの上多数御出席くださるよう御案内申し上げます。

記

1. 日時 昭和56年4月18日(土) 午後2時
2. 場所 日本大学郡山研修会館(郡山市愛宕町2-22) TEL (0249) 23-4193
3. 議題 昭和55年度会務及び決算報告、昭和56年度事業及び予算(案)審議、役員選出、その他
4. その他
  - (1) 諸般の事情により、本号に掲載の上記案内によって総会通知といたしますのでご了承がいます。
  - (2) 出席なさる方は準備の都合もありますので、なるべく御連絡くださるようお願いいたします。
  - (3) 総会終了後、引続き同所において恩師を迎え懇親会を予定しております。
  - (4) 研修会館宿泊希望の方は5日前までに母校庶務課(TEL 0249-44-1300代)に申込んでください。

### ◇ 広告の募集

会報に校友の皆さんからの「広告」を下記の要領で掲載いたしておりますので奮って御応募下さい。

- 会報の発行予定 年2回
- 会報の発行部数 約24,000部
- 広告料金

規 格	左右×天地	料 金
変B5版	143mm×47mm	20,000円
本文の約1頁	又は67mm×94mm	
〃 約1/2頁	67mm×47mm	10,000円

#### ● 要 項

- ① 応募は校友及び校友の関連する企業等に限りませう。
- ② 原稿は随時受付けますが、会報紙面に余裕がなくなった場合は次号へ繰下げます。
- ③ 原稿内容の形式は自由(写真、図等含む)とし校友としての短信を入れてもよく、又氏名を入れる場合は〇〇科〇回卒と記入して下さい。
- ④ 原稿はレイアウトして送付して下さい。(指定のない場合は事務局におまかせ下さい。)
- ⑤ 料金は原稿送付と同時にお願いいたします。
  - ㊤ 銀行振込口座 秋田銀行郡山支店  
普通No.402630
  - 郵便振替口座 郡山1990
- ⑥ 詳しくは事務局まで御連絡下さい。

#### 北海道支部

支部長 三上 茂(機8回)三上建設(株)  
事務局長 藤林義広(土17回)札幌市役所道路建設課

#### 東京支部

支部長 古村和夫(土3回)古村建設(株)

#### 東海支部

支部長 平野 卓(土3回)建設省中部地方建設局  
丸山ダム管理所  
事務局長 河野 叶(土6回)東名開発(株)

#### 九州支部

支部長 川越 正(専土2回)東急道路(株)九州営業所  
事務局長 陶山順一(建15回)株陶山建設

#### — 校友会報第37号 —

発行所 日本大学工学部校友会  
福島県郡山市田村町徳定字中河原1  
郵便番号 979-66  
電話番号 郡山(0249)44-1327  
振替口座番号 郡山1990

発行日 昭和56年3月1日  
発行者代表 会長 武田仁幸  
編集者代表 事務局長 佐藤光正

## 月島機械の水処理装置

水は都市・地域の動脈をはしる生活の源です。月島機械は全国各地に多数の水処理設備の実績を有して、ユーザーよりご信頼を戴いておりますが、更にユニークな各種の機器を用意して皆様のご要望にお応えでき得るよう、努めております。

相談役 八木 勉(昭和8年機械工学科卒業)

取締役 宇高 義春(昭和21年機械工学科卒業)

環境保全装置  
総合メーカー



# 月島機械株式会社

本社 / 〒104 東京都中央区佃2-17-15 ☎(03)533-4111  
営業所 / 東京・大阪 出張所 / 名古屋・福岡・広島・札幌・仙台